衛星画像情報：（11/12～11/20）

発行日：令和3年11月25日
中央水産試験場　海洋環境グループ

根室～日高太平洋では高濃度クロロフィル*a*領域が消失
根室海峡では高クロロフィル*a*だが赤潮の可能性は低い

JAXAが公開している衛星データ（GCOM-C、JASMESプロダクト）を元に植物プランクトン量の目安となるクロロフィル*a*濃度推定値の分布を示しました。その結果、**根室～浦河にかけての太平洋沿岸では赤潮水塊と思われる高濃度のクロロフィル*a*領域は確認されませんでした。**根室～日高の太平洋沿岸では、11/15～19のモニタリングにおいて、*Karenia selliformis*（カレニア・セリフォルミス）の細胞数密度は全ての地点で100 cells/ml未満であり、検出限界以下（0.1 cells/ml）の地点も多かったため、11/22時点では太平洋沿岸で赤潮が発生している可能性は低いと考えられます。

また根室海峡では11/12同様に高濃度のクロロフィル*a*が観測されましたが（緑実線）、顕微鏡観察によるモニタリングの結果、いずれの地点でも珪藻類や懸濁物が多かったことから（図2）、**根室海峡でカレニア・セリフォルミスの赤潮が発生している可能性は低いと考えられます。**

現在緊急対応として行っている赤潮モニタリングに加え、引き続き衛星画像や調査船調査により状況を把握し、随時情報提供する予定です。

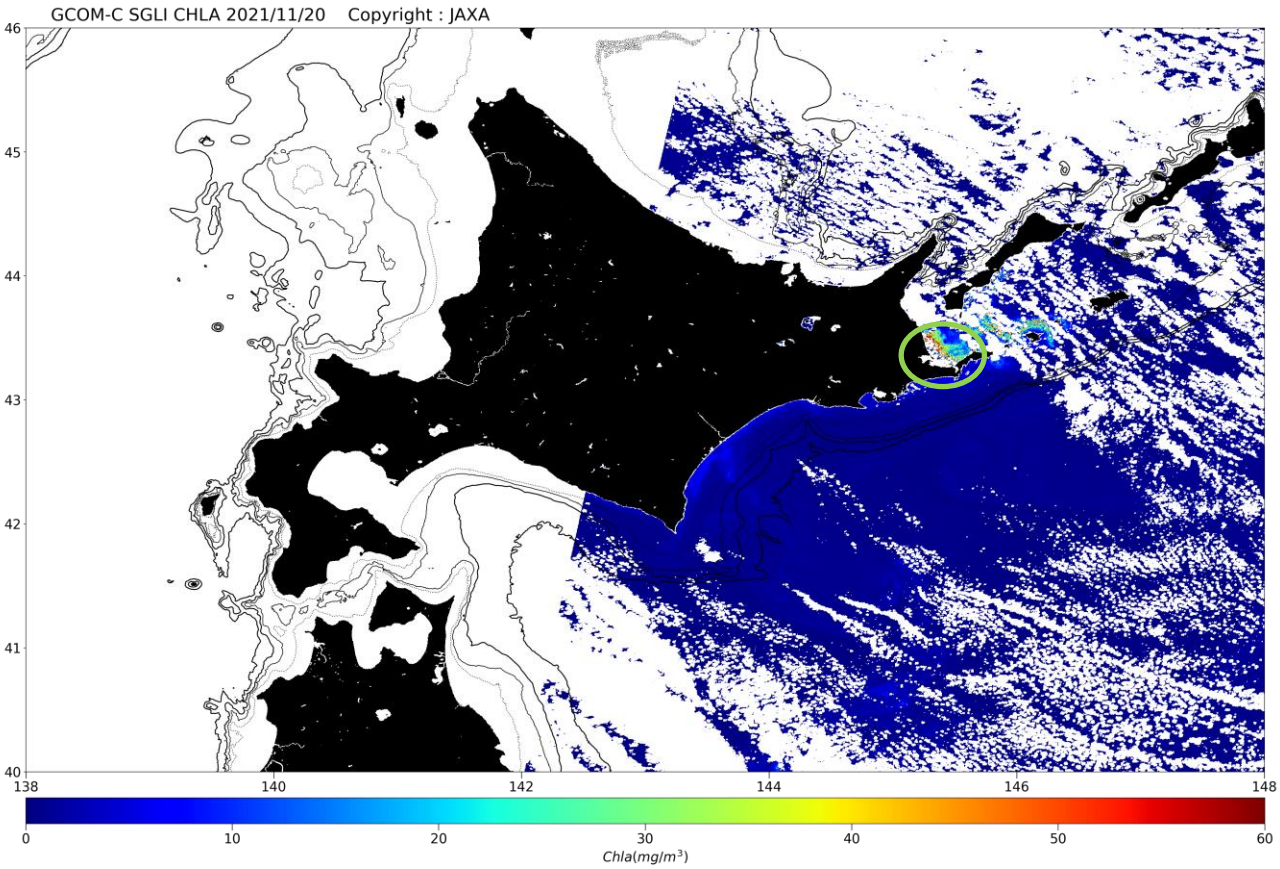


図1　2021年11月20日の表面クロロフィル*a*濃度（極端に高い領域を抽出するため0～60 mg/m³までの実数スケールに調整して作図）
等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m

※注意事項

- 人工衛星の観測画像より推定されたクロロフィル*a*濃度は誤差を含むことがあり、表面のみのデータであるため、あくまでも参考値です。
- 高濃度のクロロフィル*a*領域が全て赤潮とは限りません。増殖した珪藻類などの植物プランクトンや、河川水由来の溶存有機物や懸濁物の影響で高濃度領域を形成することもあります。

図2　根室港における植物プランクトン。*Skeletonema*属、*Rhizosolenia*属などの珪藻類が優占
（写真提供：釧路水産試験場、11/17採水試料）

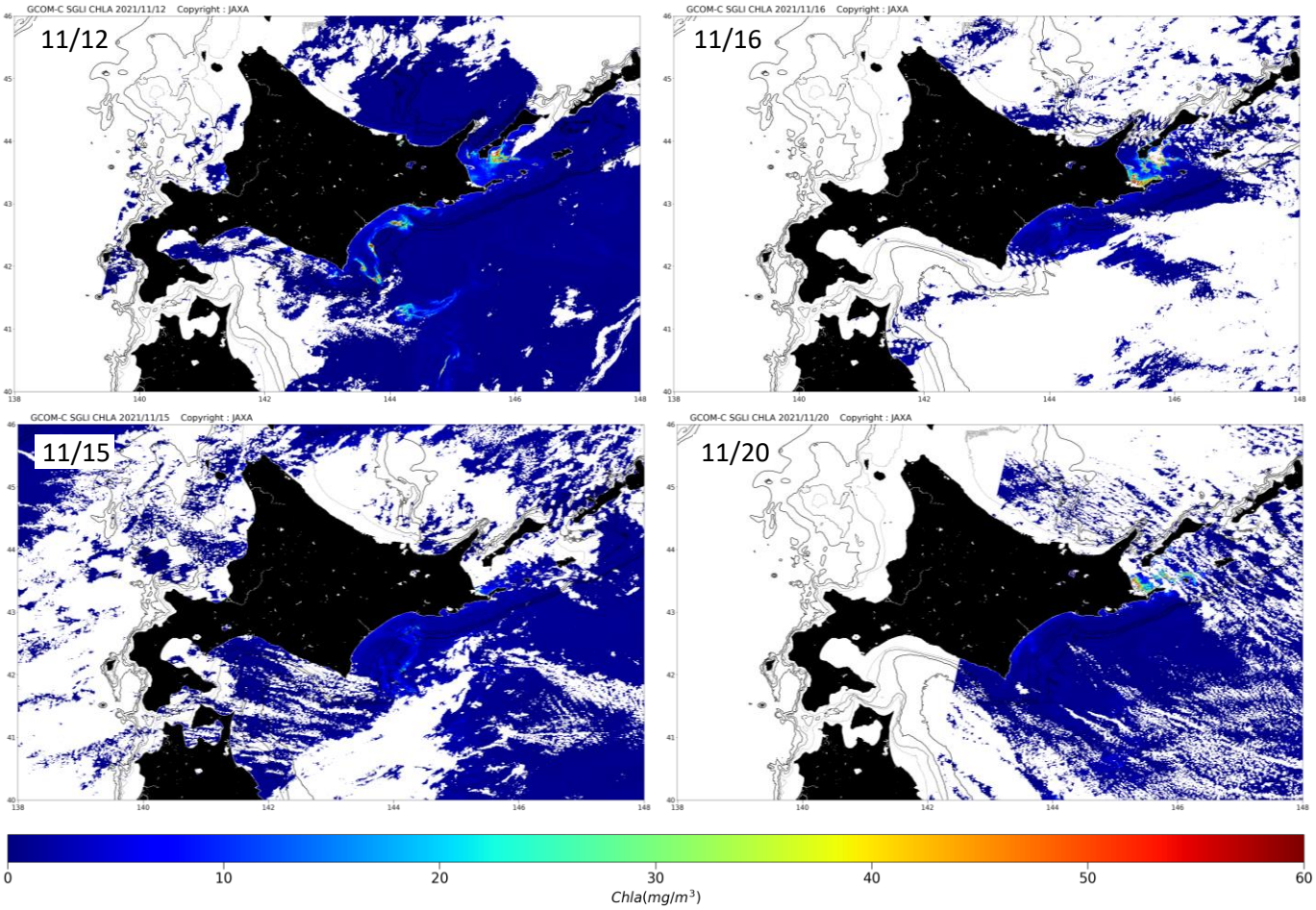
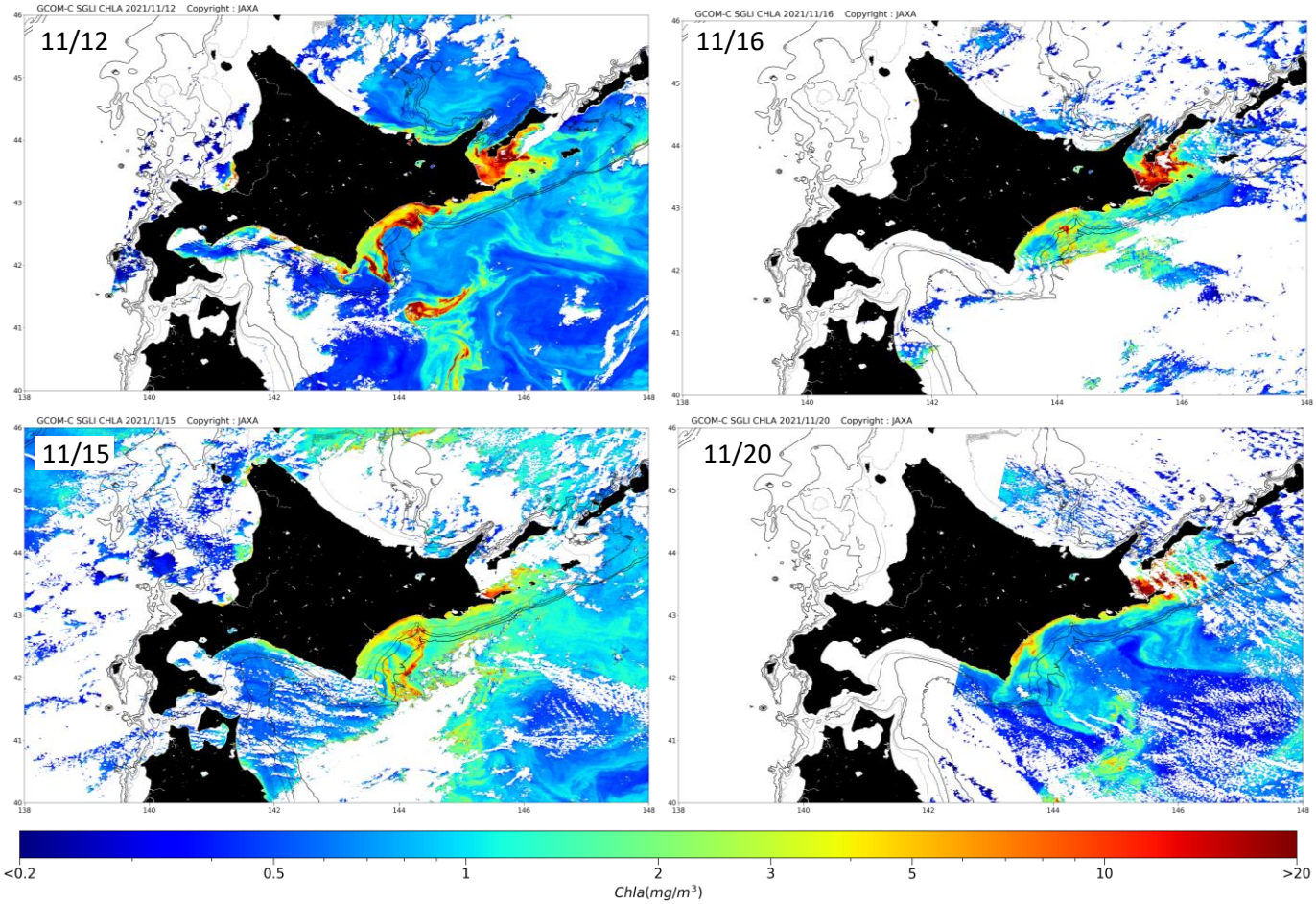
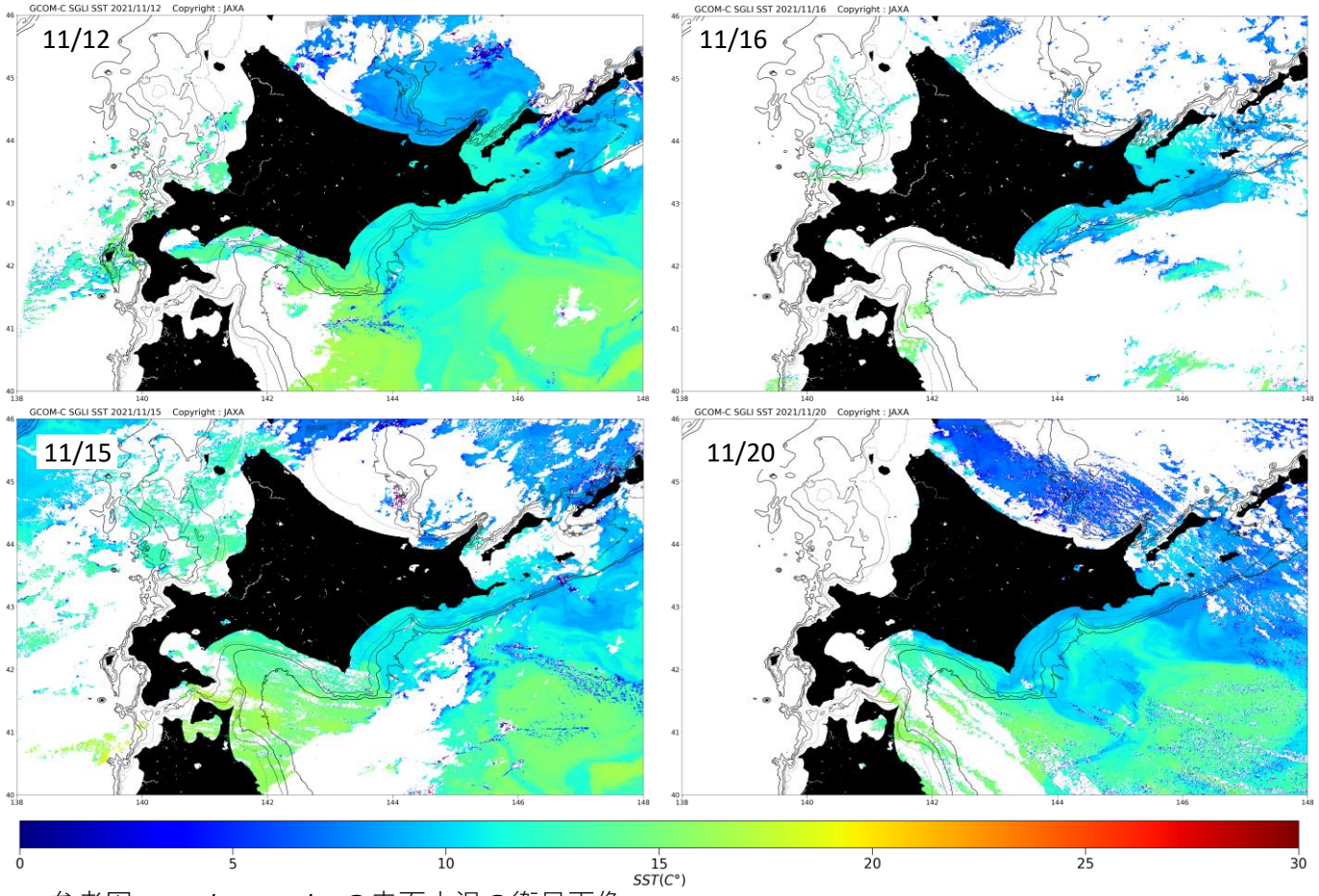


図3　11/12～11/20の表面クロロフィル*a*濃度（0～60 mg/m³までの実数スケールで作図）
等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m



参考図1　0.2～20 mg/m³までの対数スケールで作図した11/12～11/20のクロロフィル*a*濃度の衛星画像



参考図2　11/12～11/20の表面水温の衛星画像